

文化・芸術



「婦人像」

1937年ころ、墨・紙
25・8センチ×38・6センチ

(松本完氏寄贈)

松本竣介 (1912〜48年)

大川美術館新収蔵作品から

〈名画の扉〉

松本竣介は、昭和の ところえました。シルエ
戦中、戦後の困難な時 ットを加えることなく
代のなかで市井の画家 太い線で、見事に人物
として優れた作品を数 を描いています。同時
多く残しました。同時 に目を閉じて休む妻を
に大川美術館にとっ いたわるような、やさ
て、創立以来、最も大 しいまなざしも感ら
切な画家の一人です。 れます。画家であり、夫
その画家の妻禎子 である竣介というひと
は、戦中期に婦人雑誌 りの生活者の面も読み
の編集者として働いて とることができません。
いました。一日の仕事 2019年1月に開
を終えて帰宅、居間の 催された「松本竣介
籐椅子にコートを着た 読書の時間」展に出品
まま座ったところ、と されたのですが、現代
でも疲れていたのよ でも都会的でエレガン
しょうか、たちまちう トな姿が共感を呼ぶの
たた寝してしまっただ でしょうか、とても人
うです。その姿を、画 気を集めた作品でし
家の目と手はすかさず た。

(田中)